

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7	公共交通利用環境改善事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-ウ			
担当部課名	企画部 交通政策課	事業実施 (予定)年度	H24 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	人に優しい交通手段の確保		
事業内容	①【全ての利用者に対して乗降性に優れるノンステップバスの導入補助】利用者の利便性の向上を図るため、バス事業者が乗降性に優れたノンステップバスを導入する際の購入費を補助する。 ②【公共交通の利用促進に関する広報活動】路線バス利用者の減少傾向に歯止めをかけるため、ラジオCM及び新聞広告等の広報及び啓発活動を行う。 ③【バスレーン拡充等検討調査業務】伊佐以南のバスレーン終日化、普天間-山里間の通勤時間帯バスレーン延長について、アンケート調査を実施する。 ④【公共交通利用促進に向けた調査業務】「てだこ浦西駅における結節強化」を図るため、近隣大学等を結ぶキャンパスバスの実証実験を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	252,679		127,933		91,859
		(b) 予算現額	252,679		107,782		91,859
		(c) 増減額(b-a)	0		▲ 20,151		0
		(d) 前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	252,679		107,782		91,859
	B. 執行済額		237,552		107,595		91,570
	うち交付金充当額		190,041		86,076		73,256
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		94.0%		99.8%		99.7%
予算の状況の説明		・令和3年度当初予算は令和2年度に比べ36,074千円減額となっており、主にノンステップバス導入支援台数、多言語対応機器導入支援台数、広報業務委託料が減少したことによるものである。 ・執行率は99.7%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	①【ノンステップバス導入補助】 ノンステップバス導入支援台数	目標	4台	4台	1台	1台	
		実績	3台	3台	-	1台	
	②【多言語対応機器導入補助】 ②-1車内案内表示器導入支援台数 ②-2バス停標識導入支援基数	目標	車内表示器 50台 バス停 7基	車内表示器 30台 バス停 9基	車内表示器 25台 バス停 3基	-	
		実績	車内表示器 50台 バス停 3基	車内表示器 30台 バス停 6基	車内表示器 25台 バス停 3基	-	
	③【公共交通利用促進に関する広報活動】 ラジオCM及び新聞広告等の広報及び啓発活動の実施	目標		ラジオCM及び新聞広告等の広報及び啓発活動の実施	ラジオCM及び新聞広告等の広報及び啓発活動の実施	ラジオCM及び新聞広告等の広報及び啓発活動の実施	
		実績		実施済	実施済	実施済	
	④【バスレーン拡充等検討調査業務】 アンケート調査の実施	目標		・県民アンケートの実施 ・関係機関との協議等の実施	新規バスレーン導入に向けた方針決定	アンケート調査の実施	
		実績		実施済	協議会において方針議論	実施済	
⑤【公共交通利用促進に向けた調査業務】 新規ダイヤ、新規路線(既存路線の増便や時間修正を含む)の設定に向けた調査・検討	目標		・新規ダイヤ、新規路線(既存路線の増便や時間修正を含む)の設定に向けた調査・検討	実証実験の実施と効果の検証	実証実験の実施と効果の検証		
	実績		実施済	実施済	実施済		
進捗状況説明	①ノンステップバス導入支援台数については、目標に設定した台数の導入支援を行った。 ③ラジオCM270本、新聞広告7回掲載などを実施した。 ④バスレーン拡充について、アンケート調査を実施した。また、基幹バスシステムに求めるサービス水準の設定を行った。 ⑤公共交通利用促進に向け、新規ダイヤ・路線の設定に向けた調査検討を行い、キャンパスバスの実証実験を行った。						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値	R1年度	R2年度	R3年度	目標値
			(〇〇年度)				(〇〇年度)
成果目標 (指標) 及び達成状況	①【ノンステップバス導入補助】 バス利用者における導入したノンステップバスの満足度 45.8%以上	目標		49%	49%	45.8%以上	
		実績		45.8%	47.1%	26.4%	
	②【多言語対応機器導入補助】 外国人観光客における県内路線バスの満足度71.9%以上	目標		71.9%	71.9%	71.9%	
		実績		68.8%	73.9%	—	
	③【公共交通利用促進に関する広報活動】 県民の路線バス等利用意向 48.8%以上	目標		40%以上	40%以上	48.8%以上	
		実績		48.8%	42.8%	46.2%	
	④【バスレーン拡充等検討調査業務】 「通勤通学時のバスの運行時間を短縮するバスレーンの延長」施策に対する評価34.8%以上	目標		時間短縮 2分	時間設定	34.8%以上	
		実績		時間短縮 1.1分	時短効果 上り:2分 下り:4分	23.6%	
	⑤【公共交通利用促進に向けた調査業務】 実証実験の自動化	目標		計画策定	1件	1件	
		実績		計画策定	1件	1件	
達成状況説明	<p>①ノンステップバス導入支援により県内におけるノンステップバス導入率は向上しているものの、目標とする評価値には届かなかった。コロナウイルスの感染拡大により広報活動が十分に行えず、認知度が向上しなかったことが一因と考えられる。</p> <p>②外国人の満足度については、コロナウイルスの感染拡大により、満足度調査が実施できなかった。</p> <p>③目標値には達しなかったものの、コロナ禍で公共交通の利用者数が落ち込んだ前年度よりも利用意向が高くなっていることから、広報活動を通じて公共交通の利用意向の醸成を図ることができていると考えられる。</p> <p>④バスレーン延長施策に対する評価については、目標とする評価値には届かなかった。コロナウイルス感染拡大により、バスレーン延長の効果等の情報提供が十分に行えず、認知度が向上しなかったこと一因と考えられる。</p> <p>⑤公共交通利用促進に向け、てだこ浦西駅～沖国大～琉大を結ぶ「キャンパスバス」の実証実験を実施し、令和4年4月1日から自走化がなされた。</p>						

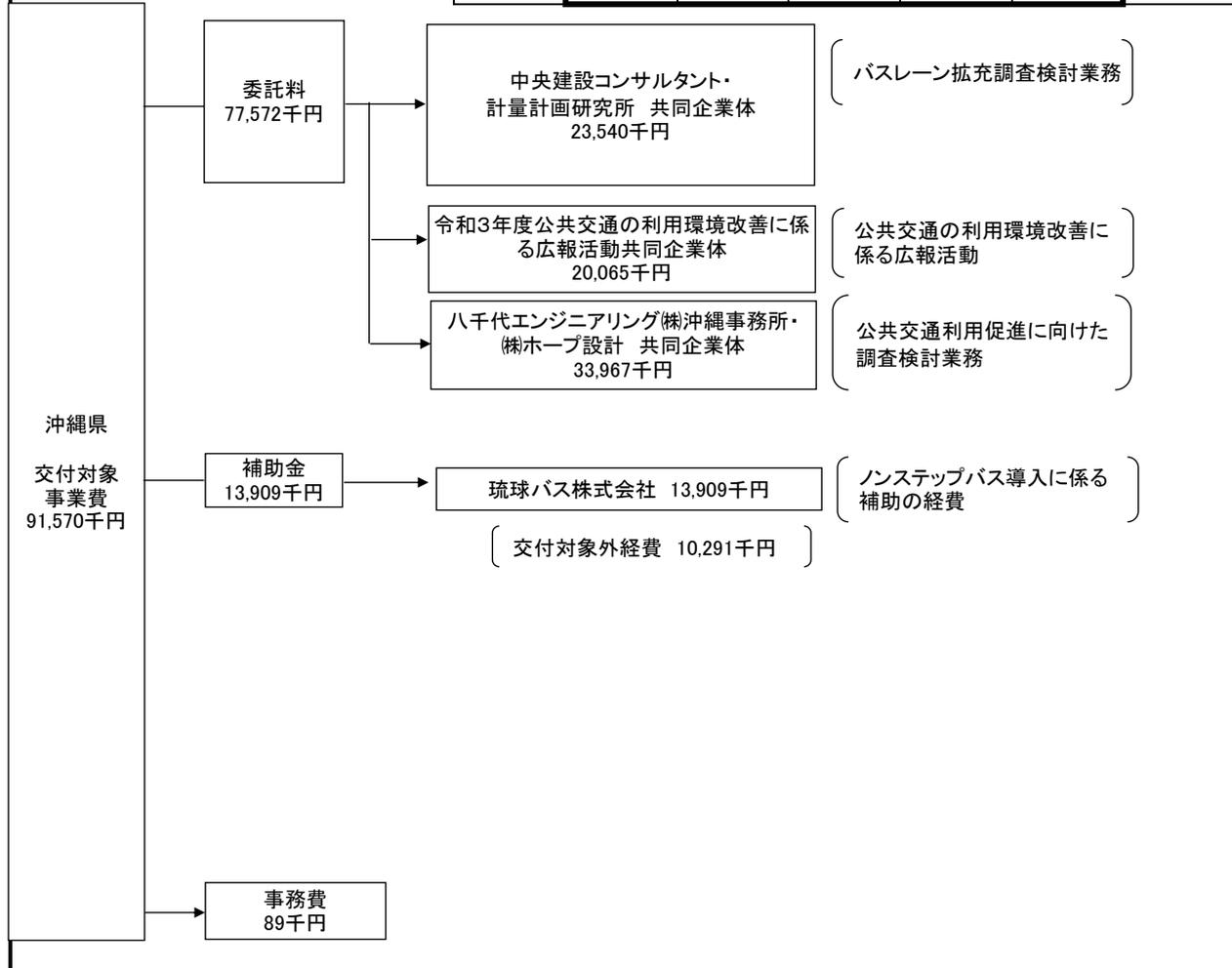
R3-No.7

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
		<p>①ノンステップバス導入事業実施にあたっては、多額の事業者負担を伴うことから、バス事業者における経営状況を踏まえた車両更新計画を注視する必要がある。ノンステップバス導入事業については平成24年度から実施しているものの、移動利便性の環境整備が進むにつれ、さらに、導入路線を拡大してほしい等利用者からの意見が聞かれる。</p> <p>②-1多言語対応機器(車内案内表示器)についても、バス事業者の自己負担が伴うことから、計画的な導入を進めていく必要がある。</p> <p>②-2多言語対応機器(バス停標識)については、歩道空間の制約等により、上屋等の設置が困難な箇所がある。</p> <p>③広報事業については、更なるバスの利用促進を図るよう取り組む必要がある。</p> <p>④バスレーン拡充については、道路空間の一部を専用利用することから、さらなる延長については、県民の合意形成が必要である。</p> <p>⑤キャンパスバスの実証実験に取り組むことで、バス事業者による自走化につながった。</p>
今後の取り組み方針		
<p>①ノンステップバス導入後の運用面について、引き続き、バス事業者等とサービス活性化に向けた意見交換を行い、現状や課題等の共通認識を図り、更なるサービスの改善に繋げる。</p> <p>②-1多言語対応機器(車内案内表示器)の未導入路線についても、導入促進を図り、外国人観光客の路線バス利用におけるサービス向上に取り組む。</p> <p>②-2多言語対応機器(バス停標識)については、国道329号与那原方面の基幹区間において設置可能場所の調査及び設置に向けた調整を行う。</p> <p>③車利用者の公共交通への転換に効果のあるテーマを選定し、訴求する取組を検討する。</p> <p>④バスレーン拡充については、県民の合意形成が不可欠であり、丁寧な合意形成手法を検討する。</p> <p>⑤公共交通利用促進調査については、大学側と協力体制の下、大学生の公共交通機関への行動変容を促すための取組を実施する。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
101,861	91,570	73,256	18,314	0	0	10,291



資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、公募型プロポーザル方式により、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・費目や使途については、事業目的の観点から必要なものであるか、完了検査、額の確定時において、支出等に関する証拠類を確認し、適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者負担を求めつつ県が一定の補助を行うことで財政的に厳しい民営路線バス運行事業者の負担軽減を図っており、負担関係は妥当であると考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	199	都市モノレール多言語化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-ウ		
担当部課名	土木建築部	都市計画・モノレール課	事業実施(予定)年度	H27 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	人に優しい交通手段の確保	
事業内容	沖縄都市モノレールの外国人観光客の利便性確保を図るため、多言語モノレールガイドブックの更新及び増刷、案内サインの更新を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	27,988		6,089	18,980	
	(b)予算現額	27,988		6,089		18,980	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		0	
	(d)前年度繰越額		10,366			0	
	A.計(b+d)	27,988	10,366	6,089		18,980	
	B.執行済額	17,140	10,219	1,650		18,979	
	うち交付金充当額	13,712	8,175	1,320		15,183	
	C.次年度繰越額	10,366		0		0	
	執行率(%) (B/A)	61.2%	98.6%	27.1%		100.0%	
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度予算は、モノレールガイドブックやポータルサイト、案内サインの内容更新に係る委託料を計上しており、令和2年度に比べ12,891千円増額となっている。 執行率100%であり、計画的に執行できた。 						
活動目標(指標)及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	①ガイドブックの更新・増刷 ②ポータルサイト等の更新 ③案内サインの更新	目標	・12.5万部(ガイドブック) ・ウェブサイトの更新	・13.4万部(ガイドブック) ・ポータルサイトの更新 ・案内サイン既存更新、延長区間新規設置	・1.5万部(ガイドブック) ・ポータルサイトの更新	・ガイドブック更新・増刷 ・ポータルサイトの更新 ・案内サイン更新	
		実績	・5.8万部(ガイドブック) ・ポータルサイトの更新	・9.8万部(ガイドブック) ・ポータルサイトの更新 ・既存区間案内サイン28基更新、メンテナンス作業	・6千部(ガイドブック)	・ガイドブックの内容更新 ・ポータルサイトの更新 ・既存区間案内サイン28基更新、メンテナンス作業 ・周知広報ポスター(100枚)、チラシ(1万枚)作成	
		目標					
		実績					
		目標					
	実績						
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトについて、コロナ禍でも外国人観光客等がスマホで回答可能なwebアンケート(グーグル自動翻訳)を作成したほか、新規にスペイン語、ポルトガル語、お知らせページを作成した。 ガイドブックについては、R1年度の内容を時点修正したデータを作成、ポータルサイトにも反映させた。 ポータルサイト等の周知広報のためポスター・チラシを作成し、モノレール駅舎や、空港、ホテル等に配布した。 						
成果目標(指標)及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値(29年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	利便性が確保されたか(80%以上)	目標	-	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
		実績	-	-	-	88%	-
	【H29以前の成果目標】 モノレール乗客数(国籍問わず) 44,807人/日以上	目標	44,807人/日	-	-	-	-
		実績	49,716人/日	-	-	-	-
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> アンケートについて、利便性の確保はポータルサイト等の満足度を5段階評価で量るとともに、役に立ったページを複数回答、その理由を記載してもらった設定とした。 結果は満足度が3以上は88%、理由として乗車ガイドや混雑時間等の基本情報により、目的地に行きやすくなった、知らなかった現地情報が知れた等のほか、下車駅周辺の地図情報等も求められていることがわかった。 ポータルサイトの利用目的や移動に使った交通手段等を分析し、今後乗車率向上に繋がる取り組みを検討していく。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・多言語で作成したチラシやポスターによるアンケートへの誘導、オリジナル画像プレゼント等により回答者増加に努めたが、新型コロナウイルス感染症による入国制限措置等のため、webアンケート回答数は伸びず、また回答者は全て国内旅行者であった。</p>	<p>・webアンケートは継続掲載するため、今後も定期的に回答を集計し、ポータルサイトやガイドブックの内容に反映させる。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・モノレールの乗客数は令和2年度より増加したものの、未だ新型コロナウイルス感染症の影響で減少しているため、今後も沖縄都市モノレール株式会社と連携し、積極的な利用促進に取り組む。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	交付対象外 経費
18,979	18,979	15,183	3,796	0	0	0
<pre> graph LR A[沖縄県 交付対象事業費 18,979千円] --> B[委託料 18,979千円] B --> C[令和3年度モノナビ 沖縄ウェブサイト等更新業務受託共 同企業体 (随意契約・企画競争入札) 18,979千円] C --- D["・株式会社電通沖縄 ・表示灯株式会社福岡支社 ・光文堂コミュニケーションズ株式会社 (再委託) ・株式会社 リマープロ"] </pre>						
評価	点検項目		評価に関する説明			
資金の流れ、費目・用途の点検評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。		<p>・ウェブサイト等更新業務委託について、実施内容が案内サインやガイドブックの更新、ポータルサイトの新規ページ追加や内容更新等多岐にわたるため、企画提案によるプロポーザル方式での選定は妥当であったと考える。</p>			
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。					
	－ 受益者との負担関係は妥当であるか。		<p>・費目、用途については、事業目的の観点から必要なものを実施し、完了後の検査を実施することで支出内容の確認を行っている。</p>			
	○ 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					